

笠山を知ろう!



笠山

北長門海岸国定公園の中心に位置し、安山岩台地に直径30m、深さ30mの小噴火口を持つスコリア丘が乗った複合型の標高112mの火山です。山頂展望台からの眺望は素晴らしく「夕陽百選」にも選定されています。



ミカン科

コウライタチバナ

コウライタチバナは、ミカン科の植物でわが国では笠山のみで自生しています。樹齢100年以上と思われるものもあり、自生地として国の天然記念物に指定されています。



ミカン科

タチバナ

本州（静岡以西）、四国、九州、沖縄、台湾に自生する暖地性常緑低木です。太平洋側は伊豆半島が北限で、笠山は日本海側の自生北限地となります。京都御所の紫宸殿の「左近の桜、右近の橘」で知られ、右近の橘は自生種よりやや実が大きいようです。



シノブ科

タマシダ

熱帯から対馬暖流を北上して長崎県の海岸から萩市の笠山に分布するシダです。つまり、笠山は日本海側の自生北限地で、山口県での自生も笠山のみです。笠山では全山いたるところに自生し、大きい群落を形成しています。



風穴

笠山の一帯には、溶岩の隙間から風が入り、風穴が多く見られ、真夏でも15℃位の冷たい風が流れています。このため、寒地性シダ植物であるホソイノデやコタニワタリ、暖地性シダ植物のイノデなどが混生し、他に例のない植生が成り立っています。



チャセンシダ科

コタニワタリ

コタニワタリは北海道や東北など比較的寒い地方を分布の拠点にしているシダです。笠山のように温暖で海のそばに自生しているのは大変珍しい事です。これは冷気のある風穴の影響によるものです。



好塩性植物

海岸近くのくぼ地は岩の隙間で海水が入り、塩水を好む植物が生育しています。エビ池では屋久島などの海岸に自生するイワタイゲキ、北海道のサロマ湖に自生するシバナが同居するなど珍しい植生を見せます。



海岸線の溶岩流

火山の噴火により流れ出した溶岩は低い方へ流れ出し、進行方向の両側には溶岩堤防を作ります。笠山の海岸にはこうした溶岩の堤防と、その内部の様子を観察できる場所が各所にあります。



石切り場跡

江戸時代、笠山の安山岩は萩の城下町の区画づくりに大量使用されるとともに、素材としては笠山石と呼ばれ、石垣や墓石、石灯笼などに使われ、藩の許可を受けた石工だけが切り出せました。



明神池から椿群生林まで 遊歩道 1.9km 車道 3km
 笠山山頂から椿群生林まで 遊歩道 1.4km
 笠山散策コース 距離 約6km 所要時間 約3時間

お問い合わせ

萩市観光課
 〒758-8555 萩市江向510
 ☎0838-25-3139 (平日のみ)
<http://www.city.hagi.lg.jp/portal/>

(社)萩市観光協会
 〒758-0061 萩市椿3537番地3
 ☎0838-25-1750
<http://www.hagishi.com/>

NPO萩観光ガイド協会
 〒758-0072 萩市呉服町一丁目33番地2
 ☎0838-25-3527

自然の魅力いっぱい!!

笠山・椿群生林



いろいろな笠山を発見しよう!

笠山を歩こう!

深紅に染まる椿群生林に感動

笠山椿群生林

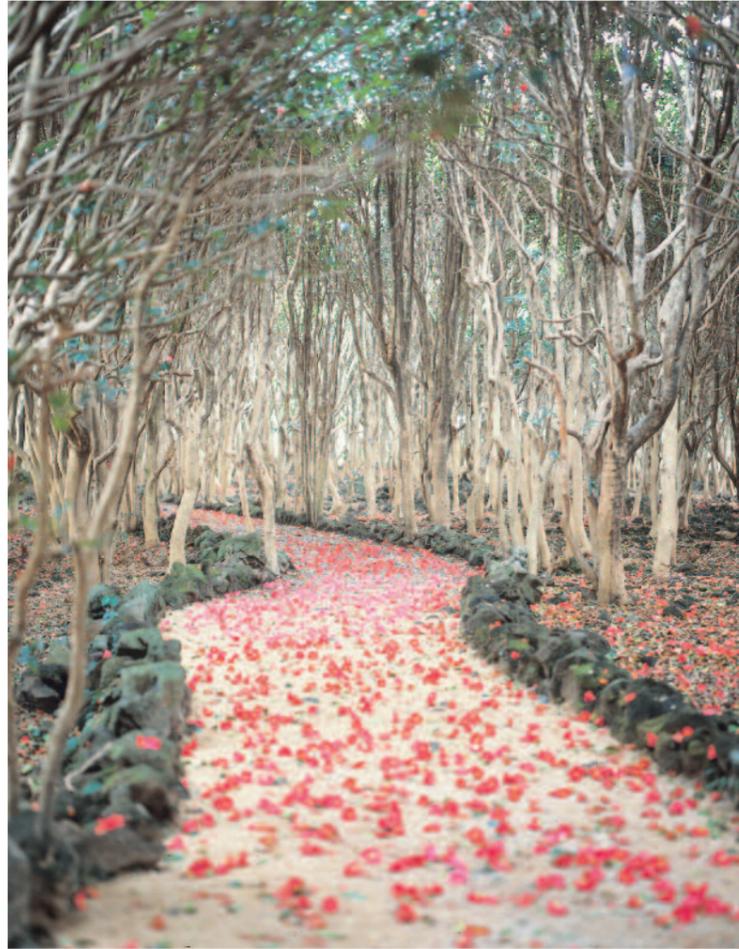
笠山の北端(虎ヶ崎)10haの広さに約25,000本のヤブツバキが自生しています。

笠山は、藩政時代には萩城の北東(鬼門)の方角に当たるので、藩では笠山の樹木の伐採や鳥獣の捕獲を禁止していました。そのため全山原生林の様相を呈し、大木に覆われていましたが、明治になってその禁が解かれ、大木は切り倒されて材材となり、雑木類は薪炭用に伐採されるなど昔日の面影はなくなりました。ここ虎ヶ崎の椿も周囲の雑木と共に何度も切り払われ、切られた木々の切り株から新しい芽が伸び、雑木の中に椿の赤い花が見られるような状態が昭和40年代まで続きました。

昭和45年、萩の椿の調査のため来萩した著名な椿の研究家の渡邊武彦博士がこの地を訪れ、ここの雑木やつる草を切り除けば立派な椿林として観光地になることを当時の市長に助言されました。それ以来、萩市は雑木の伐採、観光道路の整備などに力を注ぎ、現在見られる立派な椿林が出来上がりました。

平成14年8月1日に市指定天然記念物に指定されました。

(椿は萩市の花に制定されています。)



椿群生林展望台

笠山椿群生林内には地上13m(ビル5階建)の展望台があり、椿の花に群がる小鳥の目線で椿群生林を眺める事ができます。展望台からは、椿群生林の樹冠とともに、日本海、日本海に浮かぶ、羽島、相島、尾島などの萩の島々を眺めることができます。



椿見どころ案内人

椿の開花期間中、観光客の皆様には萩の椿と自然と文化をより深く理解していただくため、「椿見どころ案内人」が群生林内をご案内します。

- 椿の開花期間 (12月上旬～3月下旬)
申込み NPO萩観光ガイド協会 ☎0838-25-3527 (予約制 ガイド料 1,000円)
- 椿まつり期間中の土・日・祝日 10:00～16:00
申込み 椿まつり本部にて受付 (予約不要 無料)

笠山・椿群生林 つばきマップ

椿見どころ案内人がご案内します



萩・椿まつり 2月中旬～3月中旬開催

笠山の椿が見ごろを迎える2月中旬から3月中旬の約1ヵ月間、「萩・椿まつり」が開催されます。椿まつり期間中は、椿見どころ案内人によるガイドや特産品販売なども行われます。



群生林内の主な椿



萩小町

淡紅色、小輪(ちゅうりん)口咲き、雌しべの先端が雄しべの筒より長く突き出た形のこの花は、椿群生林を開いた当初から知られています。萩市内で開催される椿展示会のアンケートにより命名された椿です。



深草の少将

小輪(ちゅうりん)口咲き、先細り芯のこの花は、笠山を訪れる多くの椿愛好者が絶賛する優品です。淡紅色の萩小町のそばにある濃い朱紅色の花であることから、小野小町のもとに99夜通い続けた「深草の少将」の名前がつけられました。



ヒイラギ葉椿

この椿は、葉の鋸歯(のこぎり)が特に大きくヒイラギの葉に似ているのでこの名がつけられました。江戸時代には変わり葉椿として珍重されましたが、群生林には突然変異による2株のヒイラギ葉椿が自生しています。



大実の椿

九州屋久島の山中にリンゴツバキと呼ばれる大きな実のなる椿があります。この系統の椿は九州を北上して笠山まで及んでおり、実の直径が大きいのものは10センチにもなり、夏にはリンゴの様に赤色を帯びた実を見ることができます。



萩の里(エビ池の大ヤブ)

塩水池のエビ池のそばに樹齢100年位の一本の椿があります。日本ツバキ協会の「朱紅色の中輪、端正で気品があります。一重の簡素な花は奥深く見飽きない。」とのコメントとともに「ツバキ12か月」という本の表紙になった椿です。



白毛紅

白毛紅は、花びらの先端が内側に内曲する「抱え咲き」のうえに、花びらの外側に微毛が密生し白毛のように見えるため紅色が薄く見えます。この花は不思議なことに、雄しべと雌しべや花粉もあるのに結実しない不思議な椿です。



笠山佗助

広場そばに小さい花をつける椿があります。花の大きさが茶席に生けられる佗助椿のように花が小さい猪口咲きであることからこの名がつけられました。本来の佗助椿は小輪のうえに花粉が白く退化しているため結実しません。



笠山黒

群生林内に入った遊歩道の三叉路に笠山黒があります。椿群生林開設時から小輪の花で色が濃い花が知られており、あたかも黒い椿に見えることから「笠山黒」と命名されました。



鶴江台

菊ヶ浜

指月山

九島

鯖島

青海島

相島

尾島

見島

橋島

羽島

肥島

椿群生林